

はにわ 横浜の埴輪



上矢部富士山古墳出土 動物埴輪 (所蔵・写真提供 横浜市歴史博物館)

キーワード：古墳時代（3世紀中葉～7世紀末）・古墳・埴輪

弥生時代の特殊器台を起源として、3世紀後半に円筒埴輪が登場します。その後、4世紀中ごろに家形埴輪、器材形埴輪（武器・武具・威儀具など）、動物形埴輪が出現し、5世紀前半に人物埴輪があらわれます。しかし、7世紀に入り前方後円墳がつくられなくなると、埴輪もその姿を消します。

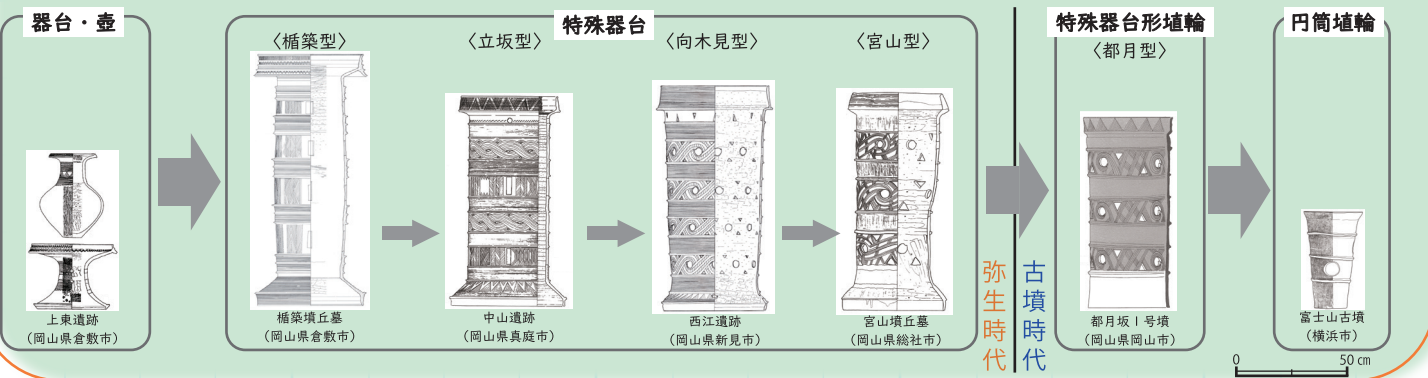
横浜市域ではこれまでに約80基の古墳がみつかっています。この内埴輪が置かれていたと考えられている古墳は未調査のものも含めると15基あります。古墳が集中している鶴見川流域では市域で最も早く、4世紀後半に古墳が導入され、やや遅れて大岡川流域や柏尾川上流域でも古墳が造営されます。5世紀になると帷子川流域など市中央部でも古墳が築かれるようになりますが、継続して営まれることはありませんでした。5世紀中ごろになるとついに市域にも埴輪を立てる古墳があらわれます。6世紀になるとさらに古墳の分布域がひろがり、古墳には横穴式石室が導入され、丘陵の斜面には横穴墓がつくられるようになります。古墳がつくられなくなった後も横穴墓は継続してつくられますが、横穴墓には埴輪は並べられませんでした。

Q. 埴輪とは？

古墳に立てられた実用的ではない素焼きの焼き物のこと

埴輪の成り立ち

弥生時代の終わりごろ、吉備（現在の岡山県）で墳丘墓（ふんきゅうぼ）などにそなえられた特殊器台（とくしゅきだい）は古墳時代になると文様や形が簡略化され、特殊器台形埴輪に変化します。その分布は吉備と畿内（現在の大阪府・奈良県・京都府周辺）に限定されます。特殊器台形埴輪はさらに簡略化が進み、円筒埴輪が成立しました。そして、大和政権の勢力が強まるとともに埴輪も各地にひろがっていきました。現在のところ横浜市域で最も古い埴輪の出土例は、5世紀中葉の日吉矢上古墳（ひよしやがみこふん）で、朝顔形埴輪が出土しています。



埴輪の種類

<p>円筒</p> <p>円筒 朝顔</p>	<p>形象</p> <p>家</p> <p>動物</p> <p>馬 水鳥</p> <p>器材</p> <p>盾 韋(ゆぎ) 大刀 鬚(さしば)</p>	<p>人物</p> <p>盾持人(たてもちびと) 武人</p>
-------------------------------	--	--

埴輪の作り方・焼き方

埴輪は長くのばした粘土紐を輪状にし、輪を上重ねていくことで高くしていきます。次にハケと呼ばれる板状の工具をつかって、表面を整えます。その上から粘土紐を付け、突帯(とったい)をつくります。突帯は通常2本以上つき、突帯の間には透孔(すかしあな)と呼ばれる孔をあけます。このようにしてつくられた埴輪は乾燥の後、焼かれます。焼き方には大きく2つの方法があります。一つは埴輪窯(はにわがま)で焼く方法、もう一つは平地で焼く野焼きと呼ばれる方法です。また、埴輪窯には斜面を利用したものと、平坦な地面を掘ったものがあります。



①駒岡堂の前古墳（こまおかどうのまえこふん）

所在地：鶴見区駒岡

時期：6世紀中葉

墳形（規模）：前方後円墳（不明）

出土埴輪：円筒・家・翳（さしば）・
靴（ゆぎ）・大刀（たち）

②駒岡山古墳と同じ台地上に位置していた古墳です。現在墳丘は残っていませんが、遺物が師岡熊野神社で保管されています。写真中央奥の翳という貴人の所在を示すための威儀具（いぎぐ）を模した埴輪など豊富な種類の埴輪が出土しています。



翳のイメージ図



駒岡堂の前古墳出土埴輪（所蔵：熊野郷土博物館）

※熊野郷土博物館は現在休館中

②駒岡山古墳（こまおかやまこふん）

所在地：鶴見区駒岡

時期：6世紀後半

墳形（規模）：円墳（不明）

出土埴輪：円筒・人物（武人）・馬

別名瓢箪山古墳（ひょうたんやまこふん）ともいいます。明治41年（1908）に帝国大学教授坪井正五郎によって調査され、駒岡山古墳とともに2基の横穴墓（岩瀬山横穴墓群）が見つかりました。右の写真は「正装男子像」と呼ばれ、頭に天冠（てんかん）をかぶり美豆良（みずら）という髪型をした身分の高い男性です。左の写真は頭部のみですが、帽子をかぶっていることから、こちらも身分の高い男性と考えられます。



「埴輪男子頭部残欠」Image:TNM Image Archives



「埴輪正装男子残欠」Image:TNM Image Archives

駒岡山古墳出土 人物埴輪（所蔵・写真提供：東京国立博物館）

③北門1号墳（ぼっかどいちごうふん）

所在地：緑区十日市場町

時期：6世紀後半

墳形（規模）：円墳（直径16m）

出土埴輪：円筒・人物（男子）・盾・大刀・靴・翳

平成16年（2004）に発掘された古墳です。この古墳群は台地の稜に沿って4基の古墳があったと考えられています。1号墳からは写真の人物埴輪が出土しています。筒袖の服に頭巾をつけ、先のとがった靴を履いているのが特徴です。ほとんど同じ形をしたものが千葉県市原市山倉1号墳でも出土しており、どちらの埴輪も埼玉県鴻巣（こうのす）市の生出塚（おいねづか）産であることがわかっています。古墳時代の地域間交流がうかがえる資料です。



北門1号墳出土 人物埴輪
（所蔵・写真提供 横浜市歴史博物館）



山倉1号墳出土 人物埴輪
（車崎ほか、2004）

④三保杉沢古墳（みほすぎさわこふん）

所在地：緑区三保町

時期：6世紀後半

墳形（規模）：前方後円墳（全長約28m）

出土埴輪：円筒・人物・馬

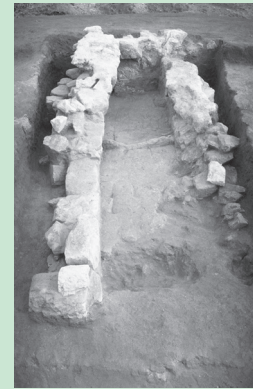
昭和53年（1978）年に調査された前方後円墳で、後円部では泥岩切石積（ていがんきりいしづみ）の無袖型横穴式石室がみつかりました。墳丘東側のくびれ部からは円筒埴輪や人物埴輪、馬形埴輪の破片が出土しています。埴輪の他に土師器（はじき）・大刀・鉄鏃（てつぞく）※・両頭金具が出土しています。両頭金具は弓につく部品で、弓が副葬されていたことを示す貴重な資料です。



三保杉沢古墳出土 円筒埴輪
（写真提供：横浜市歴史博物館）



▲墳丘
（南から撮影）



◀石室全景
（西から撮影）

※：鉄製の矢じり

⑤瀬戸ヶ谷古墳（せとがやこふん）

所在地：保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町

時期：6世紀中葉

墳形（規模）：前方後円墳（全長約41m）

出土埴輪：人物（男子）・家・靴・大刀・盾・
山高帽子・馬・蓋（きぬがさ）

昭和24年（1949）に東京国立博物館と神奈川県教育委員会が共同で発掘調査を行った古墳です。墳丘の周りに三重に埴輪が並べられており、特に墳丘裾部には円筒埴輪が、後円部上から前方部西側には形象埴輪が配列されていました。一般的な蓋形埴輪は頂部の飾りを強調したものが多いですが、当古墳のものは蓋本体の形を模しています。



瀬戸ヶ谷古墳出土 蓋形埴輪
（所蔵・写真提供：島根県立古代出雲歴史博物館）



「埴輪男子頭部残欠」(※)



「埴輪大刀」(※)



「靱形埴輪」(※)



「埴輪帽子」(※)

瀬戸ヶ谷古墳出土 人物・器財埴輪（所蔵・写真提供：東京国立博物館）

※：Image:TNM Image Archives

⑥上矢部富士山古墳（かみやべふじさんこふん）

所在地：戸塚区上矢部町

時期：6世紀中葉

墳形（規模）：円墳（長径約29m）

出土埴輪：円筒・朝顔・馬・水鳥・鳥・
人物（盾持人・鷹匠）

平成元年（1989）と翌年に発掘調査されました。出土した埴輪は横浜市指定文化財に登録されています。幅約2mの周溝が墳丘の西側と南側で確認され、周溝際から埴輪が80個以上発見されました。盾持人埴輪は盾形埴輪に人物の頭をのせた半身像で手足の表現がなく、人物埴輪の中で最も早い段階で登場した埴輪です。



上矢部富士山古墳出土 盾持人埴輪・円筒埴輪（所蔵・写真提供 横浜市歴史博物館）

Q. もっと知りたい埴輪のこと

底や内側を大解剖!



突帯（とったい）

外側の粘土紐を貼り付けた部分を突帯と言います。通常2本以上つきます。突帯の形をよく見てみると断面形が三角形のものと台形のものがあります。三角形は2本指（写真上）、台形は3本指（写真下）でナデ、整えています。



基部（きぶ）

下の写真は、普段は見るできない埴輪の下の部分です。よく見てみると、木目がついているのがわかります。これは埴輪を粘土でつくる時に、床とくっつかないようにするために、下に板や木の棒を敷いていた痕跡です。



上の写真は埴輪を3D画像にして半分に割ったものです。博物館で展示されている埴輪は内側をなかなか目にする事ができませんが、内側では制作の痕跡を観察できます。

埴輪は粘土紐を積み上げてつくり、表面はハケと呼ばれる工具を用いて整えられます。内側の見えない部分はあまり整えられていないため、写真のように粘土紐を積み上げた痕が残っていることがあります。

編集後記

今号より埋文よこはまの編集担当になりましたY.Nです。よろしくお願いします！横浜生まれ、横浜育ちのはまっこです。食べるのが大好きで、学生時代は古墳時代のカマドをテーマに研究していました。横浜の埋蔵文化財をアピールし、少しでも皆様に身近に感じて頂けるような編集を心がけてまいります！

Y.N

横浜の埋蔵文化財について発信しています。
ぜひ登録をよろしくお願いいたします！

公式 X (旧 Twitter)

公式 Youtube



《埋蔵文化財センターのご案内》

JR 根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行き
または港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

京浜急行「金沢八景」駅

3番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

- ・見学等の施設利用は、平日の9～17時までとなっています。
- ・団体の施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。



埋蔵文化財センター HP

埋文よこはま 47

発行日 2024年3月31日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里 2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1511